

成果指標				
成果指標	当該年度のGT体験受入者数／前年度のGT体験受入者数×100			
指標設定の考え方	GT体験受入者数を昨年度実績と比較することで事業効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標22年度
目 標	100%以上	100%以上	0	0
実 績	102.7%	93.6%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	実践者の主体性に基づく組織運営に資するための推進協議会の構成やあり方、市関与の方法等について概ね理解を得たため、新年度において適正な協議会運営により本来の目的を達成できるよう支援していくものである。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	2	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	本年度、実践者に主体性を持たせるため、市直営の協議会運営から、補助団体として実践者の代表者による協議会運営を行うよう転換を図った。今後は市からの協力も一部継続しながら、徐々に主体的な運営ができるよう、県下の先進組織の例を参考にしながら、体制の強化を図っていく必要がある。また、イチゴ狩りやピザ窯など特定のメニューに集客が偏っており、他のメニューについて内容を見直すとともに、メニュー数を絞るなど、検討を進め、全体としての底上げを図るよう対応を進める必要がある。さらに、中山、伊予地区への事業拡大に向けて、地元関係者との協議を進めていく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題